

第 14 回

東海三県中学校修学旅行 研究セミナー要項

2016. 10. 18

名古屋ダイヤビル2号館

223会議室 (2階)

主催 東海三県中学校修学旅行委員会
公益財団法人 全国修学旅行研究協会

後援 愛知県教育委員会 岐阜県教育委員会
三重県教育委員会 名古屋市教育委員会

研 究 セ ミ ナ ー 次 第

13 : 30 開 会

主催者 あいさつ

東海三県中学校修学旅行委員会

会 長 井 上 正 英

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

常務理事 守 屋 勝 利

13 : 40 研究発表

○ 研究主題

「 修学旅行を通じた学びと生き方」

－ キャリア教育の一環として －

○ 発表者

三重県四日市市立内部中学校

校 長 阿 部 明 由 様

教 諭 下 田 典 幸 様

14 : 25 研究協議

14 : 55 閉会のことば

東海三県中学校修学旅行委員会

副会長(三重県) 鏡 仁 治

15 : 00 閉 会

実践研究報告

「修学旅行を通じた学びと生き方～キャリア教育の一環として～」

四日市市立内部中学校

校長 阿部 明由

教諭 下田 典幸

I はじめに

- 1 学校の概要
- 2 本校の教育目標
- 3 本校のキャリア教育
 - (1) ねらい
 - (2) 現3年生のキャリア教育の実際

II 平成28年度の実践

- 1 修学旅行のねらい
- 2 行程
- 3 実行委員会の組織と活動
 - (1) ねらいを実現するための実行委員会の取り組み
 - (2) 実行委員会の活動内容
- 4 班活動について
- 5 具体的な取り組み
 - (1) 防災学習
 - (2) 平和学習
 - (3) 横浜・上野公園班別分散学習
 - (4) 都内クラス別分散学習
 - (5) ディズニーランド分散学習
 - (6) 働く人の姿に学ぶ
- 6 事後の取り組み
 - (1) 修学旅行新聞づくり
 - (2) 道徳「ありがとうメッセージ」
 - (3) 3日間を振り返って

III おわりに

「 修学旅行を通じた学びと生き方 」 ～ キャリア教育の一環として ～

三重県四日市市立内部中学校

I はじめに

1 本校の概要

四日市市は三重県北部に位置し、臨海部は石油化学等の工業地帯が広がる一方、西方の郊外は田畑や茶畑・山林も多く自然も豊かである。人口は県内最大の 31 万人を有し、市内の公立中学校は 22 校、約 8,800 名の生徒が在籍している。

内部中学校は、四日市市内の南寄りにあり、今年度創立 32 周年となった。生徒数は、563 名、学級数は 18 学級（通常学級 16 と特別支援学級 2）で、市内ではやや大きい規模の学校である。本校は部活動が盛んで、学習にも一生懸命取り組むことのできる生徒が多い学校である。また穏やかな性格で、与えられた課題に対して素直に取り組むことができる生徒が多く、全体的に落ち着いた。温かく優しい生徒が多い一方、友だちとのつながりをうまく結んでいくなどの社会性において発達途上の生徒も少なくない。また、自己肯定感に乏しく、強い不安を抱いている生徒もおり、将来の夢や希望を見つけれないという課題もある。

加速するグローバル化や高度情報化社会の中、雇用情勢は大きく変化しており、子どもが自分の将来を具体的に思い描くことが難しくなっていると感じている。そのため、将来に夢や志を持ち、より具体的にその夢や志に向かって努力ができる教育活動を仕組んでいくことが、授業の取り組みへの意欲や社会性の向上につながると考えている。生徒たちが急激に変化する社会に対応し、その中で私たち大人の世代とはまた違う夢を見つけ、自分の夢を開拓する姿勢を身につけるためのキャリア教育が、今こそ重要だと考え、本校では、「志」を軸とした教育活動を展開しており、1・2 年生で積み上げてきた教育活動の集大成の一角として、修学旅行を位置付けている。

2 本校の教育目標

内部中学校学校づくりビジョン〔平成28・29・30年度〕

《 教育目標 》 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる

めざす学校像

明るく生き生きと笑顔に満ちた学校
環境が整備された安全で清潔な学校
保護者や地域から信頼される学校

夢と志

笑顔でいっぱい!

めざす生徒像

目標や志をもち、自ら努力する生徒
互いの個性や考え方を大切にする生徒
何事にも最後まで取り組む生徒

豊かな人間性と健全な心身の育成

- 共に生きる力を高める仲間づくりに取り組みます。
- 仲間づくりを中心とした諸活動の取組。
- 地域に密着した体験学習の取組。
- 教育相談、カウンセリングの充実。
- 不登校の防止、改善の取組。
- Q-U 調査を活用した学校づくり。
- 道徳・人権教育の充実を図ります。
- 読書活動の推進に努めます。
- 朝の 10 分間読書の実施と図書館の充実。
- 体力の向上、部活動の充実を図ります。
- 自主的、自発的な活動による技術・体力の向上。
- キャリア教育の推進に努めます。
- 安全教育の徹底を図ります。
- 食育の推進に努めます。

確かな学力の育成

- 基礎・基本の定着とわかる授業をめざします。
- 少人数教育の効果的な活用。
- ICT を活用した授業の充実。
- コミュニケーション能力の育成。
- 生徒の定着度を把握した指導方法の工夫。
- 家庭における学習習慣の確立。
- 自ら課題をみつめ、自ら考える力を育てる指導に努めます。
- 体験を通じた思考力・判断力・表現力の育成。
- 特別支援教育の推進に努めます。
- 個に応じた特別支援教育の充実。
- 特別支援学校、施設との交流。

地域に開かれた学校づくり

- 学校からの情報を発信します。
- 定期的な学校通信、学年通信の発行。
- H P による情報発信。
- 保護者、地域の意見を生かした学校づくりに努めます。
- 学校自己評価の実施と結果の公表、改善。
- 積極的な学校公開。
- 地域との連携、交流に努めます。
- ボランティア活動への積極的な参加。
- 〔内御川層橋 内御っ子コンサート あったか訪問〕
- 地域と一体となって安全教育の充実を図ります。
- 関係機関等との連携による安全指導の実施。
- 校内の定期点検と整備の実施。

志をもち、目標を立て、全力で取り組もう!

元気なあいさつと正しい言葉づかいをしよう!

求められる教師の姿

- 使命を自覚し、自己研鑽に努め、実践力のある教師。
- 責任感が強く、生徒・保護者に信頼される教師。
- 居心地を持って教育活動に取り組む教師。
- 生徒と共に歩む教師。

生徒の願い

- 授業がよくわかり楽しい。
- 自分が認められている。
- 分かりあえる仲間がいる。
- 部活動が充実している。

保護者の願い

- 学力が伸びる学校。
- 社会性が育つ学校。
- 安全で安心できる学校。
- 地域に誇れる学校。

3 本校のキャリア教育

(1) ねらい

生徒が自分の夢や志を持ち、自分の将来を考え、理想の自分を描くことがキャリア教育の重要なポイントになるため、志授業や志講演をキャリア教育の柱として位置づけ、次のようなステップで実践している。

- ①自分の目標を考える取り組み
- ②自分の将来の職業について考える取り組み
- ③高校進学について考える取り組み

この3つのステップを生徒の発達段階に応じて実践することで、自分の将来の夢を実現したいという気持ちが強くなることを狙い、ひいては、自分で情報を収集し、決断できる能力につなげ、志を確かなものにしたと考えている。



(2) 現3年生のキャリア教育の実際（実践）

<1年時>

◎ 井上武さん（岐阜立志教育支援PJ理事長）

の志授業「～人生経営の社長さんへ～」

「過去は変えられない。変えられるのは未来であって、そのためには目線を上げ、目標実現に向けて努力することが大切である。人生経営の社長の資格は立志、志を持つことだ」ということを学んだ。



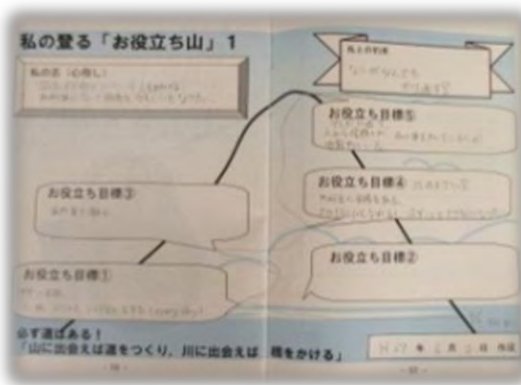
◎ Dreams come true 「夢たまご」の作成

自分の夢を書いて、それをたまご型のタイムカプセルに入れる。そのタイムカプセルは3年生になった時に開け、1年生の時の自分の夢を確認した。



◎ Dreams come true 「お役立ち山」の作成

人生プランを山登りに例え、頂上にある夢とそれを達成するに至るための目標設定を考え、それぞれを山道の途中に記入した。



< 2年時 >

◎ 「職業のプロに聞く」(1学期・2学期)

1学期は、NHK気象予報士と元客室乗務員の二人をお招きし、学年全体で講演を聴いた。その職業に就くまでの道のり、仕事のやりがいなどを、語っていただいた。

2学期は身近な8職種(「建設」「服飾」「電力会社」「警察官」「美容師」「ピアノ調律師」「介護士」「司法書士」)の方を招き、口座を開設し、生徒自身が関心のある内容を2つ選択して受講する形にした。



◎ 職場体験学習(2学期)

2回の「職業のプロに聞く」の学習をした後、11月に職場体験学習を行った。事前学習として、職場体験学習に行く目的や社会人としての礼儀について考えさせた。教師側が準備した事業所であったが、生徒自身でアポイントメントを取り、事前の打ち合わせも行った。52の事業所に協力していただき、3日間、充実した体験活動を行った。事後学習として、全員がお礼状を書き、学習した内容を個人新聞としてまとめ、発表した。

◎ 進路学習のスタート(3学期)

3年生での進路学習がスムーズにスタートできるように、2年生の3学期から進路学習に取り組んだ。生徒は進路に関して非常に興味があるが、その知識は生徒によってさまざまであることがわかった。そこで、進路選択についての基礎知識を学年全員で共有するために、総合的な学習の時間を中心に、進路通信を活用した学習を行った。

学習の内容は「就職と進学の違いは?」「全日制と定時制と通信制の違いは?」「高等学校等就学支援金とは?」「普通科と総合学科と専門学科との違いは?」等々である。知識のある生徒が発表し、その後、教師が補足説明をする形で進めた。

◎ 高校体験授業(3学期)

近隣の高校の先生に来校していただき、10講座の中から、生徒自身が2つ選択する形で実施した。生徒の希望を最優先にしたが、1講座当たりの受講人数は20~30人程度で実施することができた。協力していただいた高校は、県立高校7校と私立高校3校であり、学科は普通科(4校)、商業科(1校)、工業科(1校)、農業科(1校)、福祉科(1校)、家政科(1校)、普通科スポーツ科学コース(1校)、特別支援学校(1校)であった。

この活動は、以下の3点を大きなねらいとして行った。

- ① 学校紹介を聞き、特色ある授業を受けることで高校を知る。
- ② 高校の授業は、中学校の授業を発展一般化したもので、中学校で今学習していることが基礎となることを、高校の先生の授業を通じて、認識させる。
- ③ 商業や工業科目は中学校にない科目である。その学科を専門とする高校の先生の授業

を受け、内容を知ること、次年度進路選択の幅を広げる。

各講座とも、最初に簡単な学校紹介をしたあと、特色ある授業をしていた。多くの生徒から「高校体験授業は刺激的でとてもよかった、自分の思いに合った授業だった」という声が聞かれ、現実と夢を重ね合わせた体験授業となった。



◎ 高校体験授業発表会(3学期)

受講した高校別に小グループを作り、各学級で高校体験授業発表会を行った。

3分間の発表を聴き、生徒が相互評価をした。評価基準は、①声の大きさ ②話すスピード ③わかりやすさ ④オリジナル性 である。アドリブで対応したり、絵をかいて説明したりして、聞いている生徒もわかりやすい発表であった。



☆ これらの取り組み以外にも、地域交流・ボランティア活動等の体験活動や部活動を通して、自分の生き方や目標を意識できるような、多様な教育活動を進めている。

また、このとりくみでは、**Dreams come true**「お役立ち山」の修正につなげている。



Ⅱ 平成28年度の実践

1 修学旅行のねらい

本校では、修学旅行には大きく分けて3つの要素があるととらえている。1つ目は校外で見聞を広める「経験として」の要素、2つ目は前章で述べたとおり、「キャリア教育の一環として」の要素、そして3つ目は、中学校入学から積み上げてきた、「集団で快適に生活するための力を発揮し伸ばす場として」の要素である。これらの3つを生徒が経験を通して、自分の力とすることができるよう、具体的に4つのねらいを設定した。

- ① 1, 2年生で積み上げてきた学習の総まとめとして、自主性・自立性を重んじながら、自分の能力や特性を生かし、課題の解決に取り組む。
- ② 首都東京で、政治・歴史・文化や、そこで働く人の姿に触れ、自分の生き方を考える。
- ③ 校外での団体活動を通して、健康、安全、及び公衆道徳に対する意識を高める。
- ④ 仲間とより友情を深め、協調性を養うとともに、自分たちで考え判断する力をつける。

2 行程

上記のねらいを達成するため、班別分散学習の他に、同一テーマのもとにクラス別で行う学習なども取り入れ、以下の行程で修学旅行を実施した。

平成28年6月23日(木)～25日(土) 2泊3日 目的地：東京・横浜方面

バス====, JR■■■■, 徒歩…………, 近鉄電車……………

<6月23日(木)>

近鉄四日市………… JR名古屋■■■■■■■■■■ 新横浜■■■■ 桜木町■■■■ 関内…同發別館【昼食】
7:40 (特急列車) 8:13 8:54 10:14 10:39 10:56 10:58 11:00 11:30～12:30
……横浜班別分散学習……山下公園====両国【夕食】====東京スカイツリー====ホテル(泊)
12:30～15:30 15:30 16:40～17:40 18:15～20:15 21:00

<6月24日(金)>

ホテル====都内クラス別分散学習【各地にて昼食】・第五福竜丸展示館==東京ディズニーランド
8:30 9:30～15:00 15:30～20:30
====ホテル(泊)
21:10

<6月25日(土)>

ホテル====国会議事堂====上野公園班別分散学習【昼食】……上野■■■■■■■■ 東京■■■■■■■■
8:45 9:30～10:30 11:00～14:30 15:00 15:15 16:00
JR名古屋……………近鉄四日市
17:40 18:36 解散式 場所：近鉄名古屋駅 19:17

3 実行委員会の組織と活動

(1) ねらいを実現するための実行委員会の取り組み

188名5学級の3年生が修学旅行に向けて取り組みを進めるにあたり、クラスのリーダーである学級委員10名からなる実行委員会を組織した。本校では1年次から「自分たちで考えて、行動し、提案できる力」のボトムアップができる環境を数多く設けることを企図して、学年集会、学年行事などの運営は、各クラスの学級委員が行うよう指導している。修学旅行に関しても、これまでに培った力を発揮し発展させる機会として、実行委員会が大いに活躍した。実行委員会では、自分たちだけで物事を進めるのではなく、生徒一人ひとりが「自分たちで考えて、行動する」場面を多く設定することをねらって、話し合いを進めていった。

(2) 実行委員会の活動内容

① スローガン作り

一人ひとりの「どんな修学旅行にしたいか」という思いを大切に深めさせていくために、学年生徒全員が、一人ひとりスローガンを考えることから取り組みをスタートさせた。生徒一人ひとりの思いを実行委員会で集約し、「どんな思いで修学旅行に行くのか」「目標はどう設定するのか」「3年間の中学校生活の集大成の一つの場として自分たちはどうありたいか」などを話し合った上で、スローガンを設定した。実行委員会で決定したスローガンは以下の通りである。

えいし さっそう
英姿颯爽

～ この一瞬の思い出 輝くように ～

【スローガンにこめた思い】

内部中学校の代表として立派な姿でその一瞬一瞬を大切にしていく。
一人ひとりの力で、みんなで最高の思い出をつくろう！！

また、前章で述べた修学旅行のねらいを踏まえ、具体的な3つの目標も作った。

【3つの目標】

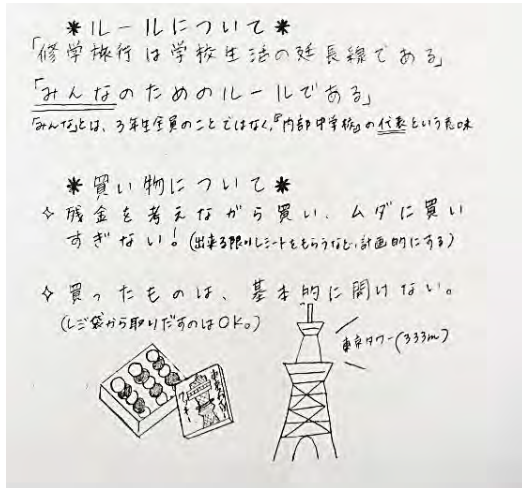
Learn … 日本の中心で歴史、政治、文化を学ぼう！

Enjoy … 188人全員が全力で楽しもう！

Respect… 出会う人との場を大切にしよう！感謝の気持ち！！

②ルール作り

「修学旅行は学校生活の延長線である」「みんなのためのルールである」ということを念頭に置き、実行委員会がルールを考えた。考えていく過程では、「いつ」「どこで」「どんな時に」「周りの状況は」などを考えてメリット、デメリットの視点を持ち、話し合いを行った。ルールを決定した後は、「実行委員会だより」を発行し、学年集会で周知・徹底を行った。以下の写真は、しおりにも綴じ込んだ実行委員会だよりの一部である。



	お菓子	お土産	お茶(水)補給	写真
近鉄電車内	×	×	×	○
新幹線内	○	×	×	○
移動時のバス内	×	×	×	○
ホテル内	○	×	×	○
横浜班別分散学習	×	○	○	○
中華街	×	○	○	○
スカイツリー	×	○	○	○
都内クラス別分散学習	×	○	○	○
第五福元丸展示館	×	×	×	○
ディズニーランド	×	○	○	○
三會議事堂	×	×	×	×
上野公園	×	○	○	○

※ディズニー 中華街の飲食についてはその場のルールにのっとってよい。
ジュース可。飲みほすこと。
※集合時の待ち時間は移動中と同じと考えること。
(お菓子、写真×)

③当日の取り組みと成果

各行程の出発時は毎回、実行委員が説明、諸注意等を行った。どんな活動をするのかを考えた上での諸注意を心がけさせた。また、実行委員会で1日1日を振り返ることができるように、どんな状況でトラブルが起こると想定されるのか、クラス全体がまとまって行動できるのか、今後のクラス作りにつながるのか、状況把握も心がけ行動するよう指示した。

夜の反省会では、クラスの状況の報告、今後の取り組み、どう変化させたいのか等、自分たちの思いを自分たちの言葉で出し合った。教師はその中でファシリテーター役に徹することで、実行委員会を通じて、子どもたちがボトムアップできる環境を作ることができたと感じている。その会議で得た成果を次の日の活動に活かすために、実行委員は先見性を持って活動できた。個の変化からクラスの変化、学年集団の変化、さらには実行委員自身の変化まで、たくさんの視点を持つことができ、リーダーとしての着実な成長が見られた。



5 具体的な取り組み

(1) 防災学習

学校における防災学習は、毎年、年間行事の中に組み込まれた防災訓練や防災研修をきちんと継続する形で行われている。しかし、継続することが目的になってしまい、マニュアル通りの動きをすることで終わってしまう傾向がある。実際に災害が起きた時には、そのマニュアル通りにいかないことがほとんどであり、マニュアルが万全にはならないことを、押さえておきたい。そこで、今年4月の熊本地震から一か月半が経ち、今一度、防災について“自分ごと”として考える機会を、修学旅行の取り組みと併せてもつことにした。

①ねらい

- ・災害は想定通りに発生しないことを知る。
- ・どんなことがあっても、自分の命を守ることを最優先させることを知る。
- ・災害対応マニュアルが常に正解というわけではなく、必ずしも正解がなかったり、複数の正解があったりするという認識をもつ。

②学習内容

【質問1】

本日 午前5：00（本日の天候）、あなたは、どこで、誰と、何をしていましたか？

【質問2】

本日 午前5：05、震度6強の地震（4分間の大きな揺れ）が発生しました。周辺状況は、停電、断水、固定電話・携帯電話全不通です。

この時、あなたはどのような状況におかれ、どんな行動をしていますか。

【質問3】

質問2のようなことが、修学旅行中に起こったとしたら…

【質問2】について考えた後、いくつかの発問をし、より具体的に想像させたうえで、【質問3】について、分散学習の場所ごとに考えた。そのうえで、各見学先や分散学習先での集合場所について、担任から確認を行った。

<生徒の感想より>

- ・地震などの災害は、いつどこで起こるか分かりません。でも、いつ起こっても大丈夫なように、避難経路の確認や、自分のすべき行動の確認をするのは、とても大切なんだと分かりました。「起こらない」と油断せず、しっかりと確認したいと思います。
- ・いつくるか分からない地震にわたしは素早く対応できるかという、パニック状態になって動けなくなると思います。家にある家具は、何も地震に備えていないので、今日みたいに想像して考えてみると、危険だなと思いました。どこにいても、自分の命を優先にして、対応できるようにしたいと思いました。
- ・家や自分が知っている場所ならば、少しは落ち着いて行動できるかもしれないけれど、修学旅行先の東京・横浜などで地震にあったら、パニックになると思います。そこで自分がどう行動するかで、命が助かるかどうかが決まってくると思いました。まずは、とにかく、自分の安全を確保しようと思います。

(2) 平和学習

①事前学習 修学旅行二日目の「第五福竜丸展示館」訪問へ向けて、以下の要領で行った。

◇ねらい ①冷戦構造の中での核開発競争の歴史を知り、その中で第五福竜丸の悲劇が起こったことを理解するとともに核兵器の恐ろしさを知る。

②核兵器の廃絶や核実験の禁止を求める運動に学び、核兵器と戦争のない世界を作り上げるために何ができるかを考える。

◇指導計画

第1時 1954年の第五福竜丸の被爆に至る経緯と、そこから原水爆禁止運動を立ち上げていった人々の姿に学ぶ。

第2時 DVD「証言～ビキニ事件」(2013年にNHKで放送された番組の録画)を視聴し、当時を知る人々の思いを知り、学習を深め、自分自身の生き方を考える。

②修学旅行当日

一日目が「沖縄慰霊の日」にあたり、移動の車の中で「平和」や「核兵器」について語り合いながら、「私たちの平和学習ってタイムリーだね」と、笑顔を交わす生徒の姿が見られた。

二日目は展示館を訪れて、20分程度の講演を聴き、その後、三々五々館内の展示や館外の慰霊碑を見学した。想像していたよりも大きな第五福竜丸に圧倒され、熱心に展示資料に見入っている生徒が多かった。時間が足りず、

「また今度ゆっくりと訪れたい」という生徒も多かった。



③事後のまとめ

「平和ぼけ」と言われる子どもたちであるが、予想以上に学習に集中し様々なことを考えている様子だった。中でも、第2時(5/27)はちょうど、オバマ大統領の広島訪問の日にあたっており、「核兵器のない世界をめざす」と語ったプラハ演説にもふれることができ、平和学習の意義について考えさせることのできる有意義な時間となった。最後に、旅行を振り返り「第五福竜丸」について書いた生徒の作文を載せておく。

第五福竜丸はすごかった。僕が想像していたよりもはるかに大きくまた歴史の重みがあった。終戦直後、日本人が核の被害を受けると誰が想像しただろうか。ビキニ沖での核実験で何人の方が亡くなっただろうか。考えるとなんだか悲しくなってきた。アメリカ側は悪気がなかったのかもしれない。だが、核兵器はなくなるべきだと思う。僕は生まれてこのかた、全くと言っていいほど、戦争と無関係な生活を送っている。だから本当の意味で平和の大切さを知らない。僕たちはふだん「平和」という言葉を多様に使っている。しかし、平和な国はごくわずかな数しかない。だから、平和が当たり前の日本が認識している平和と、平和が当たり前でない国が認識している平和とでは、意味が違ってるんじゃないかと思った。今回、第五福竜丸を見学して、平和の意味と核兵器の恐ろしさを、少しだが理解できたと思う。

(3) 横浜・上野班別分散学習

①事前学習 一日目の横浜分散学習，三日目の上野分散学習に向けて，以下の要領で行った。

- ◇ねらい ①横浜や上野といった近代日本の中心となった場所で，歴史や本物の文化財に触れる機会を持つ。
- ②校外での団体活動を通して，健康，安全，及び公衆道徳に対する意識を高める。
- ③仲間と友情を深め，協調性を養うとともに，自分たちで考え自分たちで行動する力をつける。

◇指導計画

横浜分散学習：決められた時間内に，チェックポイントを必ず全員で通過し，決められた活動範囲内でできるだけ多くの施設を見学することを計画する。飲食可能な場所など，いろいろな条件を考えて計画を立てる。

上野分散学習：チェックポイントは設定されていないが，活動中に昼食（お弁当）を食べる時間と場所も含めて，計画を立てる。

◇取り組み

横浜分散学習：交通機関や時刻表，施設の見学料金など，予め調べ学習をしてきた内容を持ち寄り，また，パンフレットなども参考にしながら，班で相談しながら決めていった。

上野分散学習：博物館や美術館，動物園などがある中，どこで何を見学したいのか，いつ，どこでお弁当を食べるのかなどを相談しながら計画を立てていった。



<生徒の感想より>

- ・今日の横浜分散計画は，決めるのが楽しかった。
- ・横浜分散の計画を班で考えて，ますます修学旅行が楽しみになってきた。

	11:10	11:20	11:40	12:00	12:20	12:40	13:00	13:20	13:40	14:00	14:20	14:30	活動費
1班			国立西洋美術館			上野動物園(昼食)			東京国立博物館				0円
2班			国立科学博物館			昼食		東京国立博物館		野口・西郷像			0円
3班			国立科学博物館			上野動物園 東 (昼食)				西郷隆盛像			0円
4班			国立科学博物館			昼食(噴水前)	上野動物園		国立西洋美術館				0円
5班			国立科学博物館			上野動物園(昼食)			国立西洋美術館				0円
6班			東京国立博物館			上野動物園(昼食)					西郷像		0円

②活動当日の様子

横浜分散学習：中華街での昼食から、修学旅行の一步が始まった。昼食を終えた生徒たちは、班ごとに携帯電話を受け取り出発した。食事場所を出たとたんに迷っているグループもあったが、地図をながめ、声を掛け合いながら目的の場所へと向かっていった。中華街を満喫するグループもあれば、赤レンガ倉庫に向けて海沿いの公園を歩いていくグループもありと、いずれも協力しながら活動する姿が見られた。「赤い靴バス」をうまく利用し、現在でも使われている歴史的な建物を見学できた班もあった。

上野分散学習：上野公園では、世界遺産に登録されると話題になっていた国立西洋美術館をはじめ多くの文化的な施設がある中で、より多くの施設を周りたという思いから足早にかけていく班もあった。思い思いの場所で、班ごとにお弁当を広げながら、次の行動を確認していた。



<生徒の感想より>

- ・中華街でいろいろな国籍の人とすれ違った。
- ・レトロな建物がたくさんあって感動した。
- ・時間通りにチェックポイントに行くことができた。
- ・汽道を見て、こんな感じで車が走っていたんだと思った。
- ・美術館にはたくさんの絵があって、タッチも細かくてすごいと思った。

③事後のまとめ

横浜、上野とも、都会ならではの施設や街並に感動する生徒が多くいた。不慣れた場所ながら、班員が協力しながら楽しそうに活動する姿があった。時間に間に合わず乗り物に乗れないなど、様々なアクシデントもあったが、全員でより良い方法を探りながら行動することができた。

(4) 都内クラス別分散学習

①事前学習

◇ねらい 首都東京で政治・歴史・文化や、そこで働く人の姿に触れ、自分の生き方を考える。

◇指導計画

5月2日(火) 見学施設の資料をもとに学級で検討会 → 学級で見学希望施設を決定

5月6日(金) 学年で各学級の見学施設を決定

6月28日(火), 7月5日(火) 班新聞づくり(各班, 担当者が記事を書く)

7月11日(月) ~ 三者懇談会に合わせて班新聞を教室前廊下に掲示

②修学旅行当日の様子

朝食後, クラス別でバスにてホテルを出発し, 下の【各クラスの見学タイムテーブル】のように各施設を見学した。各施設では, 係の方の説明を聞き, しおりにメモをとったり, 体験ブースで体験したりして, 楽しく学ぶことができた。時間が足りず, 「もっと見ていたい」「これもやってみたい」という生徒が多かった。

【各クラスの見学タイムテーブル】

	9:30~	10:00~	10:30~	11:00~	11:30~	12:00~	12:30~	13:00~	13:30~	14:00~
1組	浅草分散		バス移動	パナソニックセンター	バス移動	昼食		バス移動	第五福竜丸	
2組	第五福竜丸			お台場分散		昼食		バス移動	第一三共	
3組	浅草分散			日本銀行	バス移動	昼食		バス移動	第五福竜丸	
4組	浅草分散			NHK	バス移動	昼食		バス移動	第五福竜丸	
5組	第五福竜丸			お台場分散		昼食		バス移動	パナソニックセンター	

【パナソニックセンター】



<生徒の見学メモ>

カメラがとてもきれいでした。機械だけでなく, 現代の自然も照らし合わせながら説明してくれました。また, スマートフォンをかざすと日本語以外の言語で見ることができ, 様々な国の人たちと同じ言葉を共有することができる良いアイデアだな, と思いました。



<生徒の見学メモ>

電気機器会社ならではの斬新さを感じることができました。技術の装置などもあって, とてもおもしろかったです。ゲーム機があり, ついはまってしまいました。

【NHKスタジオパーク】



<生徒の見学メモ>

見たことのあるドラマ、アニメなどのポスターや、役を演じた有名人の写真、サインがあつてとても充実した時間を過ごせた。声優体験もできて楽しかった。



<生徒の見学メモ>

NHKの中に自分の幼い頃見ていたアニメがあつて幼い時を思い出した。スタジオのカメラの前に特殊な板がついていて、台本を写してキャスターさんが読めるようになっていてすごい工夫だと思った。カメラ目線で台本が読める！

【第一三共くすりミュージアム】



<生徒の見学メモ>

くすりミュージアムでは、薬についての知識を学べて、さらにゲーム感覚で楽しめてとても面白かったです。薬をつくるには、何人もの人と何年もの時間が必要だということを知り、薬をつくる人たちの熱意というものが伝わってきました。

【日本銀行】



<生徒の見学メモ>

さすが日本銀行という感じで警備員さんがたくさんいた。社会の授業で習うような人物の名前がたくさん出てきて、すごい場所だと改めて実感した。建物も昔使われていた窓口など、しゃれた作りで感動した。

③事後のまとめ

各見学施設での体験や説明などによる学習を通して、最新の科学技術や歴史への関心を深めた生徒がたくさんいた。また、各見学施設で働く人の姿を目の当たりにし、将来の自分について考えるきっかけとなった。

(5) ディズニーランド分散学習

①班編制について

大勢の人が集まるディズニーランドでの行動には、6～7人の生活班は大所帯過ぎるため、もう少し小回りの利く、ディズニーランド用の班の編制を行うことにした。

班編制をする前に、『自分だけではなく、学年全員が楽しめる修学旅行にしよう』という思いを確認し、以下のようなルールで編制を行った。

- ・ 3～6人で1班を編制する
- ・ 学級の壁を越え、学年全員の中で編制する
- ・ 孤立する人が出ないように、自分の事だけでなく、学年全体のことを考えて編制する

ルール確認を行った1週間後、体育館に学年全員を集め、班編制の時間を設けた。孤立する生徒が出ることも予測できたが、事前に実行委員会や学級で話し合っていたこともあり、当日欠席していた生徒を含め、43班が編制された。

その後、班長を決定し、ディズニーランドのマップを見ながら、当日の動きを各班で考えた。



②修学旅行当日の様子

- ・ 班員とはぐれるなどのトラブルが発生した場合は、本部へ来る。
- ・ 緊急時、本部が遠い場合等、その場の状況に応じてキャストに助けを求めるなど、臨機応変に対応する。
- ・ 園内は、ディズニーランドのルール（常識）にのっとった行動を行うが、門を出たら中学校のルールを守る。

以上の諸注意を確認し、ディズニーランドの班ごとに入場した。

活動時間内に班員とはぐれた生徒もいたが、班全員が本部に集まり、合流することができた。また、集合時も、お互いに声を掛け合い、ディズニーランドの余韻にひたりながらも、中学校のルール通りの行動で、時間内に集合することができた。ひとりひとりの生徒の力で、「学年全員が楽しめる修学旅行」をつくりあげたひと時となった。



(6) 「働く人」の姿に学ぶ

本校における修学旅行の3つの要素のうち、2つ目の「キャリア教育の一環として」の要素に焦点を当て、この学習に取り組んだ。

「なぜ仕事をするのか」「自分の人生の中で仕事や職業をどのように位置づけるか」という勤労観や職業観は、ある年齢に達すると自然に獲得されるというものではない。発達の段階や発達課題の達成と深く関わりながら、段階を追って発達していくものである。また、その発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠であり、学校教育では、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人一人の発達を促していく必要がある。

生徒たちは2年時に、二度の「職業のプロに聞く」と三日間の「職場体験学習」を行っている。「職業のプロに聞く」では、「どんな小さな仕事も必ず世の中とつながっており、誰かの役に立つ」「今置かれている場所で努力を重ねることによって必ず道は開ける」ということを学んだ。また、「職場体験学習」では、自分たちの生活する地域社会の中で実際に働くという活動を通して、働くことの喜びと厳しさを身をもって体験すると共に、いろいろな職業についての関心を高めることができた。

それをさらにおし進め、今回の修学旅行では「首都東京で、政治・歴史・文化や、働く人々の姿に触れ、自分の生き方を考える」ことをねらいとする学習を仕組んだ。学校とは異なった環境で社会生活を体験することで、様々な「働く人」の努力、行動によって自分が受ける印象や気持ちを考えさせる。さらに、自分はどんなことに魅力を感じたのか、どんな「働く人」になりたいかを考えさせることで、働くことに対する興味をさらに高めたいと考えたのである。

そこで、修学旅行の三日間、「働く人の姿に学ぶ」という視点を持って過ごさせることを目的として、次のようなワークシートを作成し、しおりの中に綴じ込んだ。

「働く人」の姿に学ぶ

修学旅行の三日間、見学地を見て楽しむだけではなく、たくさんの「働く人」に出会い、その姿を見て学んだことと思います。そこで学んだことを、自分の将来につなげて考えましょう。

クラス別分散見学地で、

- ①「働く人」は、あなたを案内するためにどんな努力をしていましたか。
- ②あなたが、「働く人」にしてもらったことで印象に残っていることは何ですか。
それはなぜですか。

3日間、添乗員さんの働く姿を見て、

- ①どんな努力をしていましたか。
- ②印象に残っていることは何ですか。それはなぜですか。

3日間、たくさんの「働く人」の姿を見て、

- ①印象に残った人は誰ですか。それはどんなことでしたか。
 - ②それを見てどう思いましたか。
- ◎あなたは、将来どのような「働く人」になりたいと思いますか。

以下、生徒のワークシートからいくつかを抜粋する。

～「働く人」を見て～

- ・エレベーターの従業員＝大人数いる中で、大きな声ではきはきと話してくれて、わかりやすかった。何もしていない時でも笑顔で、何か聞いても笑顔で、見ていて気持ちよかった。
- ・バスの運転手＝「シートベルトを着けてください」などの言葉が印象に残りました。私たちの安全を気遣ってくれているのだと思いました。
- ・ホテルの従業員＝一部屋一部屋をととてもきれいにしてくれて、驚くと共に、そのおもてなしの心に感動しました。
- ・新幹線の清掃員＝次に乗る人が使いやすいように、短時間で丁寧に掃除をしてくれた。
- ・旅行会社の添乗員＝行く先々で常に先頭に立ってみんなを案内していた。電車のホームでもみんなをしっかり見てくれて、全員がそろっているかを確認してくれていて、すごい人だなと思った。
- ・先生＝三日間、いつも生徒の体調を気遣ってくれた。ふだんの学校でも大変だと思うのに、修学旅行ではもっと大変だろうなと思い、すごくありがたいと思った。



～将来どのような「働く人」になりたいと思うか～

- ・人を喜ばせたり、楽しませたりできる人になりたいです。また、周りへの配慮、気遣いができる人にもなりたいです。周囲に常に気を配っていて誰かが困っていたら助けてあげられるような人は見ていてカッコいいし、とても憧れます。そのような人になっていけたらいいなと思います。
- ・私は将来、美容師になりたいので、お客様に一番近くで接することができるように、思いやりを忘れない「働く人」になりたいです。「またここに来たい」「来てよかった」と言ってもらえる美容師になりたいです。
- ・社会に貢献できるような、また世界中に笑顔を届けられる、そんな看護師になりたいです。

修学旅行の三日間、生徒は学校という閉ざされた空間を出て社会生活を体験した。それはすなわち、「働く人」で構成されている「社会」という環境で三日間を過ごすことであった。つまり生徒以外の人間はほとんどすべて「働く人」であったのだが、残念ながらこの視点を獲得できた生徒はワークシートを見る限り少ない。ここから生徒の現段階での力を推測してみるに、「学ぶこと・働くこと」の目的・意義については理解できているが、「生き方の多様性の理解」にまでは到達していないのだと考えられる。

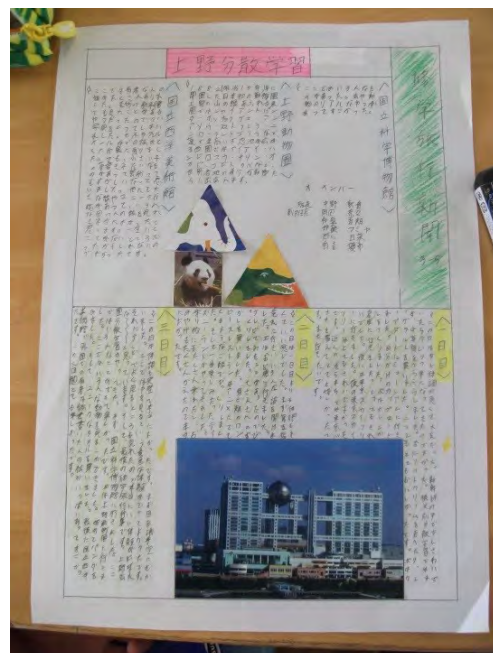
人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人・家庭人・地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。人はこのような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して人や社会に関わることになり、その関わり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくのである。

今後も、学校生活と社会生活を結び、関連づけ、将来の夢と学業を結びつけることにより、生徒の学習意欲を喚起しつつ、「自分らしい生き方」を模索させていきたい。そして、多様な生き方・働き方があり、その集合体が「社会」なのである、という視点を獲得させていきたい。

6 事後の取り組み

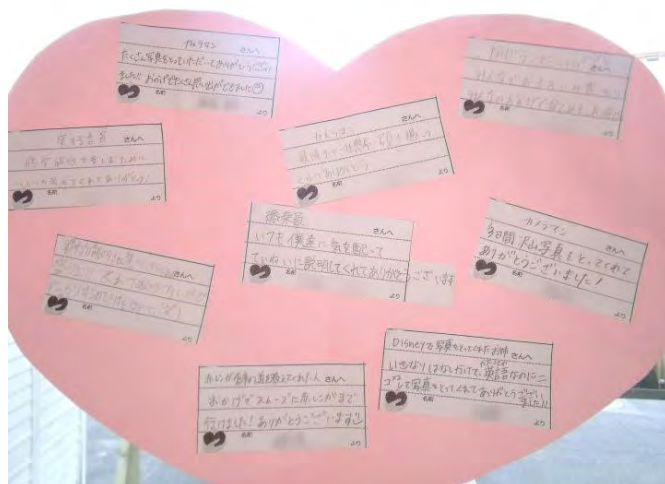
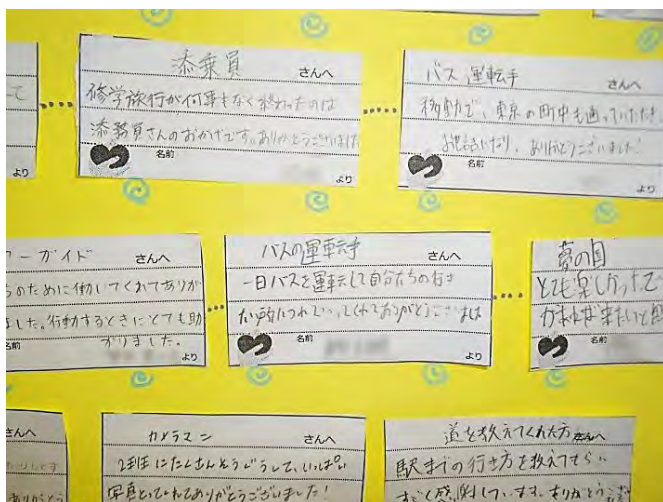
(1) 修学旅行新聞づくり

学んできたことを表現する事後活動として、修学旅行新聞づくりを行った。基本的には個人新聞の形で作成したが、班活動も重視した修学旅行であったため、まとめまで班でひとつのものを仕上げることを目指し、班員全員分をまとめた班新聞の形で完成させた。生徒は、「①国会議事堂」「②横浜分散学習」「③グルメ・お土産」「④第五福竜丸展示館」「⑤都内クラス別分散学習」「⑥上野公園分散学習」の6つのテーマから、各自が事前にひとつを選び、そのテーマについての記事を重点的に担当するという形で新聞を作成した。完成後全員分をひとつの模造紙に掲示し、班としての新聞を完成させた。



(2) 道徳「ありがとうメッセージ」

道徳の時間を活用し、修学旅行でお世話になった人に感謝のメッセージを書く活動を行った。この活動を通して多くの生徒が、一緒に活動した班員や友達、全体を見て努力してくれた班長や実行委員への感謝を形にすることができた。教師や添乗員、保護者に感謝を伝える生徒も多かった。中にはホテルの従業員の方、旅先で出会った人など、直接会って感謝を伝えることのできない相手にもメッセージを書く生徒がおり、「自分の見えないところでも、自分たちのために動いてくれる人がいる」ということを感じる力が育っている様子がうかがえた。



(3) 三日間を振り返って〈生徒の感想より〉

- 三日間を通して、それぞれの施設で働く方々の工夫や、その仕事に対する意識がすごいと思いました。また、班の人たちの人間性（良いところも悪いところも）というものが明らかになったことも良かったと思います。三日間、いろいろな人と関わったりお世話になったりして、「自分がこうして生きていられるのは、たくさんの人に関わってもらい、支えてもらっているからなんだなあ」と改めて感じることができました。

- 学んだことはたくさんありました。添乗員さんをはじめ、たくさんの人から優しさをもらい、いろいろなことを学びました。特にディズニーランドの係員にはとても感動しました。面倒くさいと思っていなかったことが伝わってきて、「やっぱり夢の国なんだなあ」と思いました。たくさんお土産を買って親や妹に喜んでもらえたのでうれしかったです。班別分散でも、たくさん話ができて、絆が深まったような気がしました。ハプニングが起こるごとに、班員で話し合い、乗り越えることができました。何より、クラスみんなの絆がとてもよく深まったと思いました。

- 三日間の修学旅行があつという間に終わってしまった。普段の生活ではできないことを、聴いたり体験したりすることができた。第五福竜丸展示館では、第五福竜丸のたどった歴史や乗組員とその家族の苦しみ、水爆実験が行われた背景などを知ることができた。たくさん学んだことを残り少ない中学校生活と、これからの人生に生かしていきたい。

- 一番良かったと思うのが、班全員で協力できて、時間通りに進み、何のトラブルもなく班活動を終わられたことだと思う。どこに行っても班員が助けてくれたから、どこに行っても楽しかった。仲間って大事だなあということを学べた。

- 楽しいだけでなく、学ぶこともできた修学旅行だった。周りのことを考えて行動すること、自分たちでいろいろ判断すること、3年生になってそれがもっとできたような気がした。友達とずっと一緒にいると、もちろん良いところ悪いところが見えてくるから、より相手への理解が深まり、仲が良くなったと思う。

- この三日間は学ぶことがたくさんありました。その中でも私が一番に学んだことは仲間の大切さです。特に、班での行動の時にそれを感じました。なぜかと言うと、班の子が落し物をした時には、男子は走って見つけようとしていたし、女子もそれに協力して、全て見つけることができたからです。仲間がいなかったら見つけることが出来なかったと思います。これからも仲間を大切にしていきたいです。

- 仲間の大切さ、働く人の大変さがこの三日間ですごく学べました。クラス、友達と一緒にいることで楽しめ、喜べ、笑って過ごせたと思いました。今まで話さなかった子とも話したりしていろんないいところを見つけられました。働く人は、私たちを、安全第一で楽しめるように、最高の思い出となるように説明や誘導をしてくれて、すごく責任があるし大変なんだと思いました。

これらの事後の取り組みを通して、生徒たちは自分たちの取り組みを肯定的に振り返ることができた。新聞づくりでは、それぞれの生徒が三日間の経験を振り返るだけでなく、最後まで班で協力して活動をやり遂げることが出来た。道徳では、修学旅行の成功の陰にはたくさんの人の思いや努力があることを確認したりすることができた。「誰かの仕事、頑張りに自分が支えられている」ということを実感的にとらえられた経験となった。

Ⅲ おわりに

これまでの学びの集大成として取り組んだこの修学旅行を通して、4つのねらいが達成され、生徒が大きな手ごたえと経験を手に入れた様子が随所に見られた。三日間の生徒の感想の中にも、この修学旅行のねらいがある程度達成されたのではないかと考えられる記述が多かった。特に班別分散の計画や当日の行動の場面では、中学校の最高学年として、各生徒が自主性・自立性を持って活動に取り組むことができた。また、班長や修学旅行実行委員などのリーダーが大きく成長した三日間でもあった。準備段階から学年全体のことを考え、三日間の活動中も常に全体を見渡して判断し行動する姿は、1年時から積み上げてきた自主性をいかに発揮するものだった。自分たちの立てた目標、スローガンの達成のために自主的な行動を取り、修学旅行を成功させられたという手応えは、生徒にとって大きな成功体験となった。「目標を持って自主的に努力する」ことを重視する本校のキャリア教育の視点からも、大切な実践の場となった。

また、自分の生き方を考える機会とする視点からも、生徒は有意義な経験をしたと考えられる。見学地で学んだ歴史や日本の政治、最先端の技術などは、生徒の今後の生き方に大きな影響があるだろう。また、「働く人の姿に学ぶ」の活動を通して、働く人の姿を間近に見ることで、多くの生徒が働くことの意義をあらためて考え、自分のキャリアづくりについて考える機会を持つことができたのも、大きな収穫であった。2年生までのキャリア教育で、職業に対する見方を深め、自分の目標を考えてきた取り組みが、ここで結実してきていると言える。しかし、もちろん「自分の生き方を考える」という取り組みは道半ばである。この修学旅行で考えたことを「自分らしい生き方」につなげていける指導が、これから必要である。

校外での団体活動を通して、健康・安全及び公衆道徳に対する意識を高めるというねらいについても、三日間の活動を通して常に意識しあう様子が見ええた。そして、学校を離れて仲間と生活する中で、普段は見られない仲間の意外な一面を発見し、より仲を深めることができたという感想を、多くの生徒が語っていた。生徒たちは、仲間と周りの多くの人の協力のおかげで充実した修学旅行になったという感謝の思いを持ち、自分と周りとのつながりについても、その大切さを身をもって体験することができた。

この修学旅行を通して伸ばすことができた自主性・自立性、社会性、多くの経験活動、そしてかけがえのない仲間との絆は、生徒たちの今後にとって大きな財産だと考えている。今後は、生徒が手に入れたこれらの経験を、学校生活や日常生活の中で、具体的に自分の進路選択や人生設計につなげられるよう指導していきたい。